

農大だより十五号

発行：平成26年
3月13日
栃木県農業大 学校
〒321-3233
宇都宮市上籠谷町
1145-1
Tel：028-667-0711

「夢を持ち続け いつの日か 我が胸に
金メダルを！」

栃木県農業大 学校副校長兼教務部長

飯島 孝雄



本年度も残り少なくなった二月に、記録的な大雪があり、本県をはじめ関東甲信地方に甚大な被害が発生し、本校でも被害を被りましたが、一年間を振り返ると学生、研修生共に大きな事故もなく平穩に過ごすことができました。

今年度は、本科の学生は六十三名が卒業、研修科の「とちぎ農業未来塾」では九十四名が修了となり、就農、雇用就農、あるいは農業関連企業・団体への就職、また専修学校となつて初めての四年制大学への編入合格等と新たな一歩を踏み出すこととなりました。就農する皆さんには、本校で学んだ知識や技術を活かし、本県農業を担う優れた農業経営を实践されることを、また農業に直接就かない

皆さんには、農業の良き理解者として本県農業を様々な立場から支援してくれることを強く期待しています。

今年ソチ冬季オリンピックが開催され、氷上や雪上で持てる力を出し切る選手達の姿がテレビで放映されましたが、その映像から教えられた二点について述べてみます。

まず、選手一人ひとりが、持つて生まれた天性に加え弛まぬ努力を積み重ねた上で健闘する姿に改めて敬意と感動を覚えました。なかでも葛西選手の表彰台での勇姿と受賞後の言葉が深く印象に残っています。葛西選手がこの度の栄冠を得るまでの道程を見聞したとき、学生、研修生には、「夢を

持ち続け努力を重ねていけば、必ずや夢は実現するものだ」と固く信じ、「自分もいつの日か夢が実現した時、自分への褒美として金メダルを授与するんだ」と思いつけて欲しいものだと感じました。

また、選手の健闘ぶりばかりでなく、選手を支え、選手の能力が十二分に発揮できるよう助言や指導に専念するコーチ・トレーナーの存在を知ったとき、我々職員も学生や研修生に対しての確な教育・研修が出来るよう自己研鑽に努めなければと痛感したところです。併せて、就農したての卒業生、修了生がいつの日か理想とする農業経営を築き上げ金メダルを掲げられるよう、同窓会の諸先輩や地域の農業者等の皆様にも良きコーチ・トレーナーとして卒業生、修了生に暖かい御支援をいただければと感じたところです。

本県唯一の農業者研修教育機関として、今後とも農業経営に夢を持った『人材』を多く輩出していきたいと考えておりますので、同窓会や後援会をはじめとした関係機関・団体の皆様方には御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

関東ブロック プロジェクト発表会

関東ブロック農業大 学校等業績発表会が、長野県長野市で一月二十二日から二十三日に開催され、本校から三名が参加しました。

プロジェクト発表の部に園芸経営学科花き専攻二年の齋藤貴大君と、畜産経営学科二年の鈴木雅人君が、一所懸命取組んだ試験研究の成果を発表し、意見発表の部で農業経営学科一年の篠崎聡帆さんが、「繋がる」農業を目指す想いを熱心に発表しました。



卒業論文発表会

(本科2年生)

平成二十五年度の卒業論文発表会が一月三日に開催され、本科各学科専攻代表者六名が研究結果の発表を行い、活発な質疑応答が行われました。

発表に先立ち、北山校長先生から、「今回の六名の発表はそれぞれ労作であることが感じられた。他の学生に關しても大変苦労したと思う。代表の六名を含め全員が努力賞にあたる。今後いろいろな場面で試行錯誤があると思うが、今回はその入り口として経験を生かしてほしい。」と挨拶がありました。また、飯島副校長先生から「課題設定の動機が、我が家での営農に直結している良かった。一年生もよく取り組んでほしい」と講評を頂きました。

発表者及び発表課題については、次のとおりでした。

① 農業経営学科

大島 聖史

『キュウリの露地野菜栽培と雨よけ栽培での収量・品質の違い』

② 農業経営学科

吉田 康輝

『水稲「なすひかり」全量基肥肥料の開発』

③ 園芸経営学科野菜専攻

篠田 恭兵

『トマトの栽培における品種の違いが生育・収量・品質に及ぼす影響』

④ 園芸経営学科花き専攻

齋藤 貴大

『シクラメンの肥効調節型肥料の違いが生育に及ぼす影響』

⑤ 園芸経営学科果樹専攻

島田 拓明

『ナシ「幸水」における受粉方法の違いが果実肥大に及ぼす影響』

⑥ 畜産経営学科

小埜 篤史

『ペルメトリン製剤を用いた肉用牛に対する昆虫忌避効果と地方病型牛白血病の予防効果』



二十五年度卒業生の進路

平成二十六年二月末日現在、卒業予定学生のうち、就農予定者は十七名、就職予定者は四十四名、進学が二名となっています。

また、就職内定者の内訳は、農業関連企業及び農協を含めた農業関連団体が十一名、一般企業・関連外団体及びその他が十五名となっています。

学科 (専攻)	卒業予定学生	就農予定				就職予定		進学 その他
		即就農	研修後 就農	雇用 就農	うち 内定者			
農業経営	25	4	2	0	2	19	8	2
園芸(野菜)	13	8	6	0	2	5	4	0
(花き)	9	1	0	0	1	8	5	0
(果樹)	9	2	1	1	0	7	4	0
畜産経営	7	2	0	1	1	5	5	0
計(人)	63	17	9	2	6	44	26	2
(率)		27.0				69.8	※	3.2

注)平成26年2月末日現在
※就職内定率59.1%(雇用就農を加えると64.0%)

先進的経営体実習（本科1年生） －技術の向上と社会人としての自覚をめざして－

実践教育の一環として、実際の現場で学ぶ、先進的経営体実習が行われました。

期間は八月二十三日から九月三十日における二十七日間を基本に行われました。

各地域の農業振興事務所に受入先の選定を依頼し、それぞれの希望に沿った、地域の先進農家や農業法人に於いて行われました。

農大に入学して五か月、基礎的な実習を経た一年生、五十六名が参加しました。

実際の現場での栽培技術や飼養管理技術の習得に加え、経営や受入先の方々の農業に対する思い等、多くを学び貴重な体験となりました。

改めて、受入先並びに関係機関の皆様へ御礼申し上げます。

○農業経営学科（作物）

【宇都宮市水稲農家】



○農業経営学科（露地野菜）

【大田原市野菜農家】



○園芸経営学科（野菜専攻）

【栃木市いちご農家】



○園芸経営学科（花き専攻）

【下野市鉢物農家】



○園芸経営学科（果樹専攻）

【大平町ブドウ農家】



○畜産経営学科

【高根沢町酪農家】



第37回農大祭

大地の恵みは苦心あってこそ光り輝く～ Beautiful Harvest ～

第三十七回農大祭が十一月二十三日～二十四日、農大キャンパスで、秋晴れの下開催され、約五千二百人の来場者で賑わいました。農大祭では、卒業論文、先進的経営体実習、書道、フラワーアレンジメント、美術・写真サークル活動の展示がなされました。

大地の恵みである農大産・県内産農産物等の販売や、各種模擬店も開店しました。

イベントとしては、スタンプラリーや、寄せ植え体験、子牛ふれあい牧場などの他、鹿沼南高校吹奏楽部、地元上籠谷お囃子会、OBのハワイアンなどの演奏が祭を盛り上げてくれました。

また、二十三日夜は、中夜祭と称し、学生グループの催し物を楽しみました。



当たれ！スタンプラリー抽選会



見た、食べた、買った、賑わう農大祭



熱心に見入る、卒論展示コーナー



鹿沼南高校吹奏楽部♪うっとり(^o^)



好評！農大直売所
本年度は四月十日から三月二十六日までの水曜日に三十九回の「農大直売所」を開設し、正門正面の教育研修棟玄関で生産物を販売しています。本科学生や研修生が生産した生産物を学生が販売し、消費者とふれあっています。その他、農大生が生産物を販売するイベントとして「県庁愛ふれあい直売所」、「食と農ふれあいフェア」、「サンセットマルシェ」、「飛山祭り」、「アグリプラザ祭り」、「フレッシュファーマーズマルシェ」等にも参加しました。農大産の生産物は好評で、いずれのイベントでも完売しました。

キャンパスライフ

(平成25年7月～平成26年2月)

学生自治会 役員選挙結果

七月十二日に学生自治会選挙が行われ次年度会長、副会長が決まりました。

会長には四名、副会長には三名の立候補があり、投票の結果、会長には園芸経営学科果樹専攻の松本高德君が、副会長には畜産経営学科の篠原修人君、農業経営学科小林潤也君が選出されました。

「地域ふれあいプロジェクト」 地元小学生との交歓

八月六日に、宇都宮市の清原地区市民センターとの共催で「わくわく自然体験楽校」を開催しました。当日は、雨がばらつくあいにくの天気でしたが、参加したおおよそ二十名の小学生は、農大をフィールドに、農作物の収穫体験をしたり、牛に触ったり、またブルーベリーによる草木染めを

したりして夏休みの一日を過ごしました。

また、九月には氷室ふれあい発見ラリー、四月には地域内小学校のいちご摘み取り体験がおこなわれました。

農業大学校は、小学生の農業体験学習等に協力しています。



秋季校内スポーツ大会 & 収穫祭

秋季校内スポーツ大会と収穫祭が十一月六日、晴れわたる青空のもと開催されました。

全校学生の



百二十名が、農畜グループ（農業経営・畜産経営）と園芸グループ（野菜・花き・果樹）に分かれ、さらにA、Bの二チームを編成し力と技の熱戦を繰り広げました。

この戦いを制したのは園芸グループで、各種目ごとの成績ではバスケットボール、バドミントン、ドッジボール、綱引き、クロスカントリリーを園芸Bチームが、卓球を農畜Aチームがそれぞれ一位を獲得しました。

昼食には収穫祭が行われました。本校農場で収穫された食材をふんだんに使い学生自ら作った豚汁や弁当が用意され、収穫の喜びをかみしめました。



全国農大等プロジェクト 発表会

(国立オリンピック記念
青少年総合センター)

平成二十六年二月十八日～二十日の三日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。発表会では、各ブロックから選ばれた十五プロジェクト（養成課程）及び意見発表の部十名の発表がありました。

意見交換には三名が参加し、十グループに分かれて全国の学生と交流を深めました。

校外学習の「コマ

(畜産経営学科)

家畜人工授精実習の一環として、前橋種雄牛センターを訪問。



研修部門の紹介

就農準備校 「とちぎ農業 未来塾」

本年度で六年目となる

「とちぎ農業未来塾」で、九十四名の研修生が就農を目指して各種作目の栽培技術の基礎や農業経営の基礎を学びました。

十一月の農大祭には、研修生が栽培したねぎ、はくさい、だいこんなどの各種秋野菜が出品され、来場者から好評を博



しました。また未来塾OBコーナーも開設し、未来塾を修了し新規就農した多数のOBの方に、様々な農産物を出品していただきました。

一月十八日には、定年帰農希望者研修の、また三月六日には新規就農希望者研修の閉講式が行われ、各研修生から就農に向けた決意の言葉が聞かれました。本県農業に新しい風を送っていたただけのものも期待されます。

また、先日は、平成二十六年研修生の募集が締め切れ、百数十名の方から申込をいただきました。



とちぎ農業ビジネス スクール

今年で四年目となるビジネススクールは、昨年七月に開講しました。県内各地から選ばれた二十名の研修生は、経営や流通に関する講義を受け、演習等を行いました。研修のまとめとして、各自「経営革新プラン」を作成して、三月に研修を修了しました。

今後は、この経営革新プランの実現に向け、地域の経営モデルまたはビジネスモデルとなり、本県農業を牽引していただけるものと期待されます。



平成二十六年度農業機械研修計画について

☆農業機械士養成研修（前期）

- ① 九月三十日～十月十六日
 - ② 十月二十九日～十一月二十日
 - ③ 二月三日～二月十九日
- 定員は①・②は各二十五名、③は十五名です。研修期間は十日間で農耕車限定大特免許も取得できません。

★農業機械士養成研修（後期）

- ① 十一月二十六日～十二月四日
 - ② 十二月十日～十二月十八日
 - ③ 一月十四日～一月二十二日
- 定員は①・②・③各二十名です。研修期間は六日間で農耕車限定けん引免許を取得できます。

研修の申込みは四月から行いますが、電話等で空き状況を確認し、研修受講申込書に記入し農業大学校 農業機械研修係宛（〒322-1132 宇都宮市上籠谷町一四五一）送付して下さい。

申込みは各振興事務所や農協等に置いてある農業機械研修計画の受講申込み書を利用するか、農業大学のホームページから申込み書を印刷して下さい。